

議案第 2 号

令和 6 年度業務実績報告書について

公立大学法人青森公立大学の令和 6 年度業務実績報告書は、別紙に定めるところによる。

第1 全体評価：順調 ※R5年度【132件[A評価：4件 B評価：128件]】

【大項目：7件】すべて4（順調な進捗）
【小項目：131件】A評価：11件 B評価：120件

教育、研究、地域貢献及びその他の業務のいずれについても、中期計画の進捗は順調であることから、全体としても順調であるものと評価する。

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置(P18～P31)

1 教育に関する目標を達成するための措置(P18～P27)

【大項目評価：4（順調な進捗）】 年度計画：達成

【小項目評価：51件[A評価：4件 B評価：47件]】 ※R5年度【52件[A評価：4件 B評価：48件]】
< A評価 >
①「授業評価に関するアンケート等の結果を基にした教育改善を推進し、必要に応じて現行カリキュラムの改善を図る。」（P18 No.6）
→教育改善の推進のため、授業評価アンケートの設問に「科目の到達目標」の達成度合いを自己評価する項目を追加し、**よりアンケートとしての精度を高めて実施**した。
②「志願者の獲得を図るために、県内外の高校訪問や出張講義、進学説明会を効果的に実施するほか、県外の高校教員を対象とした説明会を継続して開催する。また、オープンキャンパスの実施をはじめ、各種進学説明会への参加や大学見学の受入を積極的に実施する。」（P22 No.26）
→年度計画に掲げる取組みを確実に実施した以外に、**学部長と3学科の教員によるミニ講義動画の作成や大学見学等の申込方法を改善**するなど、新たな取組を複数実施した。※ミニ講義動画アクセス数合計5,954件（2024年10月公開日～2025年3月31）
③「学生の変化する就職活動の実情やニーズに対応できるよう、必要に応じてWebツールを活用した相談対応を継続するほか、オンライン面談等に対応できるミーティングボックスを効果的に活用し、支援体制の充実を図る。」（P25 No.43）
→オンライン説明会や面接に対応可能な**ミーティングボックスを効果的に活用**し、社会環境の変化に沿った支援体制の充実を図った。ミーティングボックス利用件数/129件（R5実績/65件）
④「全国平均値を上回る就職率を維持する。」（P26 No.49） →**就職率100%を達成(全国平均値98.0%)**。

2 研究に関する目標を達成するための措置(P28～P31)

【大項目評価：4（順調な進捗）】 年度計画：達成

【小項目評価：13件[A評価:3件 B評価：10件]】 ※R5年度【13件[B評価：13件]】
< A評価 >
①「大学の地位を高めたと認められる研究成果を顕彰する。」（P28 No.54）
→各教員から提出される研究業績を基に選考し、部局長会議の議を経て、**10件の顕彰を決定**した。
②「教員の研究成果の地域還元を推進するため、地域住民を対象とした公開講座などを5講座開催する。」（P29 No.56）
→年度計画数値目標である5講座を上回る**6講座（120%）**を実施したことに加え、**受講者数も855名（前年比151%）**となった。
③「戦略的研究費の適正な配分により、大学の教育研究上有意義と認められる研究に対する支援を行う。」（P30 No.61）
→学長が本学の教育研究上有意義と認められる研究について、教員に対して戦略的研究費を配分し、教育研究活動の支援等を行った。**支援実績：顕彰 10件380千円（昨年度0件）**

第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置(P32～P37)

【大項目評価：4（順調な進捗）】 年度計画：達成

【小項目評価：19件[A評価:2件 B評価：17件]】 ※R5年度【19件[B評価：19件]】
< A評価 >
①「公立はこだて未来大学との連携協定に基づき、学生及び教員との交流事業を行い、青函圏域の大学間連携を推進する。」（P32 No.68）
→新たな取り組みとして二大学連携特別公開授業を実施し、これまでゼミ単位で行っていた交流事業を大学全体としての交流に拡充したことや、本学開催時は一般市民の受講を受け入れるなど、地域貢献の側面で大きな成果を挙げた。
②「教員の研究成果の地域還元を推進するため、地域住民を対象とした公開講座などを5講座開催する。」（P35 No.76）
→年度計画数値目標である5講座を上回る**6講座（120%）**を実施したことに加え、**受講者数も855名（前年比151%）**となった。

■大項目別評価の評価区分
5:特筆すべき進捗 4:順調な進捗(小項目別評価がすべてS、A又はBである場合) 3:おおむね順調な進捗(小項目別評価におけるS、A又はBの割合が9割以上) 2:進捗がやや遅れている(小項目別評価におけるS、A又はBの割合が9割未満) 1:進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある

■小項目別評価の評価区分
S評価:年度計画をはるかに上回って実施している A評価:年度計画を上回って実施している B評価:年度計画をおおむね実施している C評価:年度計画を十分には実施していない D評価:年度計画を実施していない

※公立大学法人青森公立大学事業年度評価実施要領から抜粋(R4.3.24改正 青森市地方独立行政法人評価委員会)

第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置(P38・P39)

【大項目評価：4（順調な進捗）】 年度計画：達成

【小項目評価：12件[A評価：1件 B評価：11件]】 ※R5年度【12件[B評価：12件]】
< A評価 >
①「教員職員を対象とする人事評価(自己評価・評価実施)の試行を実施するとともに、教員職員からの意見等を踏まえ、本格導入のための検証を行う。」（P38 No.90）
→教員職員を対象とする人事評価（業績評価）の本格実施について、導入の準備を進めた結果、教授会での承認を得たことから、令和7年度から本格実施することを決定するとともに、関係規程を制定した。

第5 経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置(P40～P42)

【大項目評価：4（順調な進捗）】 年度計画：達成

【小項目評価：14件[A評価:1件 B評価：13件]】 ※R5年度【14件[B評価：14件]】
< A評価 >
①「科学研究費補助金等の外部研究費の申請を11件以上行う。」（P40 No.97）
→第3期中期計画策定年度の直近2年度(令和元年度～令和2年度)の平均以上(11件)の件数を**上回る14件の申請**を行った。
科学研究費補助金：8件 公益財団法人青森学術文化振興財団助成事業：6件

第6 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置(P43・P44)

【大項目評価：4（順調な進捗）】 年度計画：達成

【小項目評価：7件[B評価：7件]】 ※R5年度【6件[B評価：6件]】
< B評価 >
①「令和7年度の大学機関別認証評価の受審について、適切に準備を行う。」（P43 No.112）
→令和7年度の大学機関別認証評価の受審について、適切に準備を行った。
②「評価結果や改善策等を学内会議等により教職員に情報提供する。」（P43 No.114）
→青森市地方独立行政法人評価委員会の評価結果及び組織、業務運営等に係る改善事項等への反映状況を、HPで公表、学内会議で情報提供・共有した。

第7 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置（P45～P47）

【大項目評価：4（順調な進捗）】 年度計画：達成

【小項目評価：15件[B評価：15件]】 ※R5年度【16件[B評価：16件]】
< B評価 >
①「学内の施設・設備について、定期的な点検や診断により、緊急性及び必要性を勘案しつつ、インフラ長寿命化計画に基づく効果的・効率的な整備を行う。」（P45 No.117）
→インフラ長寿命化計画に基づき、図書館の屋上防水工事及び高圧引き込みケーブル更新工事の大規模修繕を実施した。
②「国際芸術センター青森の運営体制を強化するとともに、青森アートミュージアム5館連携協議会へ参画し、共同Webサイト運営、アートツーリズム誘客等のPR事業、「AOMORI GOKAN アートフェス2024」を実施し、国際芸術センター青森への来場者促進を図る。」（P46 No.122）
→青森アートミュージアム5館連携協議会へ参画し、共同WEBサイト運営、アートツーリズム誘客等のPR事業、及び「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」を実施し、国際芸術センター青森への来場者促進を図った。
③「障害のある学生及び教職員等に対して、合理的配慮の提供を行う。」（P47 No.131）
→障害者差別防止・解決委員会において、修学上の配慮が必要な学生に対する支援等について検討し、支援・配慮を行うとともに、学生との定期的な面談等を通じて必要な配慮や支援、年4回面談を行った。